

令和８年度 第１回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会次第

日 時 令和８年７月１０日（金）１８時３０分～

場 所 高梁市役所 ２階 保健センター

１ 開 会

２ 会長・副会長の選任

３ あいさつ

４ 協議事項

（１）令和８年度高梁市における地域ケア会議の全体像について

＜令和８年度の事業計画について＞

（２）在宅医療・介護連携推進事業について

（３）実務者部会について

（４）高梁かんどねっとについて

（５）ACP 話し合いシートについて

５ そ の 他

６ 閉 会

※令和８年度第２回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会

日時：令和９年２月５日（金）１８時３０分～

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会委員名簿

令和8年4月1日～令和9年3月31日

◎会長 ○副会長

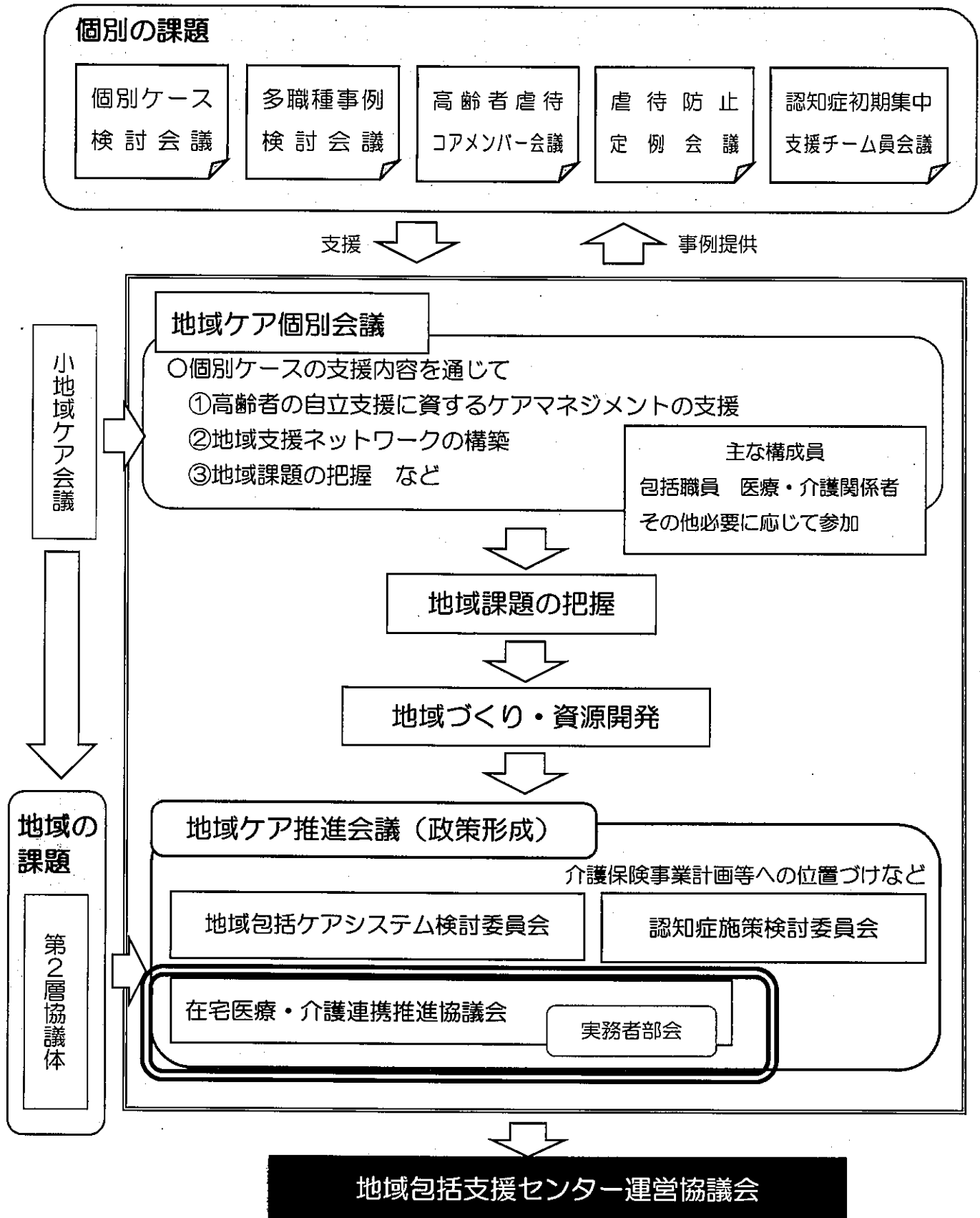
No.	所属及び役職名	氏 名	備 考
1	高梁医師会 会 長	野 村 良 明	野村医院
2	高梁医師会 理 事	仲 田 永 造	仲田医院
3	高梁歯科医師会	樋 口 将	樋口歯科医院
4	岡山県薬剤師会高梁支部	笹 川 隆 弘	落合薬局
5	(一社)岡山県介護支援専門員協会高梁支部 (一社)岡山県介護支援専門員協会 理事)	草 野 貴 史	グリーンヒル順正
6	高梁市社会福祉法人連絡会	磯 村 葉 子	グリーンヒル順正
7	岡山県看護協会高梁支部	熊 本 里 子	大杉病院
8	岡山県栄養士会高梁支部 支部長	石 井 桂 子	大杉病院
9	リハネット高梁 会長	杉 本 さとみ	高梁中央病院
10	実務者部会 部会長	牧 野 祥 恵	さきがけホスピタル
11	吉備国際大学 看護学科 教授	山 形 真由美	吉備国際大学
12	岡山県備北保健所 保健課 課長	田 頭 羊 子	備北保健所
13	高梁かんごねっと コーディネーター	原 田 邦 栄	高梁医師会
14	高梁市消防本部 警防課 課長	坂 本 正 直	消防本部警防課
15	高梁市健康福祉部健康づくり課 課長補佐	惣 田 美栄子	健康福祉部 健康づくり課

事務局

地域包括支援センター	所長	西川 優子
〃	所長代理	江藤 悦子
〃	所長補佐	倉橋 重昭
〃	主査	花森 節子
〃	主任	北井 千晴

地域ケア会議体制図

「個別課題の解決」、「地域包括支援ネットワークの構築」、「地域課題の発見」、「地域づくり、資源開発」、「政策の形成」の5つの機能を有し、要因等を分析して再発防止へ繋げる。



令和8年度 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会体制図

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会

在宅医療及び介護を一体的に提供できる支援体制の構築を検討

- (1) 地域の医療・介護の資源の把握
- (2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出及び対応策の検討
- (3) 切れ目のない在宅医療及び在宅介護の提供体制の構築推進
- (4) 医療・介護関係者の情報共有の支援
- (5) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (6) 医療・介護関係者の研修
- (7) 在宅医療・介護連携に関する地域住民への普及啓発
- (8) 在宅医療・介護連携に関する他の自治体等との連携

構成員：各職種・団体の代表者など

実務者部会

- ・在宅療養を進める上での医療・介護現場の課題の抽出と連携推進
- ・推進協議会で決定した重点課題を多職種連携による協議で具体化
- ・専門職の資質向上と医療・介護関係者の連携を推進するための研修会

構成員：コメディカル・介護の実務者代表 など

コアメンバー

検討内容によって関係者を招集

高梁かngoねっと（高梁医師会）

- ・在宅医療・介護連携推進のための「看看連携」体制の確立
- ・教育機関・各種団体等と協働で取り組む人材確保と育成
- ・その他、在宅医療・介護連携推進と地域医療の実施に係る体制整備に必要な事業 など

構成員：市内病院・訪問看護看護師 など

令和8年度 高梁市在宅医療・介護連携推進事業計画（案）

事業目標	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療と介護の関係者が協力して、在宅医療と介護の連携強化を図る。	
目指す成果	医療と介護の関係者が協働・連携を図り、在宅医療と介護を一体的に提供できる。	
	ICTの利活用によって、業務の効率化や多職種間の連携を図ることができる。	
	人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援できる。	
昨年度の 評価	医療機関及び介護事業所等がICTの利活用により業務の効率化、多職種連携の強化を図り、医療・介護サービスの質の向上につなげていくことは重要である。昨年度に引き続き、集合形式での多職種連携研修会を開催し53名の多職種が参加をした。アンケートより、83%の参加者が「大変良かった」、17%の参加者が「良かった」と回答するなど、非常に満足度の高い研修を実施する事ができた。	
	ラインワークスの加入状況であるが、令和8年3月末現在で102事業所・129IDで利用となっている。令和9年度より有料化（1IDにつき月500円）になる事を踏まえて、今後の利用継続についてアンケートを実施。有料となっても継続する事業所が81.8%になり、高梁市にはなくてはならない情報共有ツールとなっている事が伺えた。ICTの利活用による業務の効率化、連携強化により医療、介護サービスの充実を図っていく。	
	人生会議（ACP）について、専門職向けの普及啓発に力を入れ、ホームヘルパー・ケアマネジャー向けの普及啓発および視察研修を実施した。専門職に対しても、人生会議についての普及啓発を実施する事で、本人が望む医療やケアが進められる体制づくりに寄与した。	
今年度の 主な事業	1. 令和8年度高梁市医療・介護市民公開講座 日時 令和8年11月8日（日） 場所 高梁総合文化会館 内容 別紙（案）のとおり	
	2. 人生会議（ACP）の普及・啓発	
	3. ICTを活用した医療・介護連携システムの在り方検討	
	4. 実務者部会実施事業 ・医療介護地域ネットワークシステムの構築 ・多職種連携研修会 ・ACPの普及についての検討 ・診療情報提供書（高梁市内高齢者施設用）の見直し	
	5. 高梁かんばんねっと（高梁医師会）委託事業 ・専門職のスキルアップと人材育成	
会議 （予定）	第1回	令和8年7月10日（金） ・在宅医療・介護連携推進事業の計画等について
	第2回	令和9年2月5日（金） ・今年度の事業取り組みについて ・医療介護連携システムについて ・次年度に向けての課題と方向性について

令和8年度 高梁市在宅医療・介護連携推進事業計画（案）

事業目標	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療と介護の関係者が協力して、在宅医療と介護の連携強化を図る。	
目指す成果	医療と介護の関係者が協働・連携を図り、在宅医療と介護を一体的に提供できる。	
	ICTの利活用によって、業務の効率化や多職種間の連携を図ることができる。	
	人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援できる。	
昨年度の 評価	医療機関及び介護事業所等がICTの利活用により業務の効率化、多職種連携の強化を図り、医療・介護サービスの質の向上につなげていくことは重要である。昨年度に引き続き、集合形式での多職種連携研修会を開催し53名の多職種が参加をした。アンケートより、83%の参加者が「大変良かった」、17%の参加者が「良かった」と回答するなど、非常に満足度の高い研修を実施する事ができた。	
	ラインワークスの加入状況であるが、令和8年3月末現在で102事業所・129IDで利用となっている。令和9年度より有料化（1IDにつき月500円）になる事を踏まえて、今後の利用継続についてアンケートを実施。有料となっても継続する事業所が81.8%になり、高梁市にはなくてはならない情報共有ツールとなっている事が伺えた。ICTの利活用による業務の効率化、連携強化により医療、介護サービスの充実を図っていく。	
	人生会議（ACP）について、専門職向けの普及啓発に力を入れ、ホームヘルパー・ケアマネジャー向けの普及啓発および視察研修を実施した。専門職に対しても、人生会議についての普及啓発を実施する事で、本人が望む医療やケアが進められる体制づくりに寄与した。	
今年度の 主な事業	1. 令和8年度高梁市医療・介護市民公開講座 日時 令和8年11月8日（日） 場所 高梁総合文化会館 内容 別紙（案）のとおり	
	2. 人生会議（ACP）の普及・啓発	
	3. ICTを活用した医療・介護連携システムの在り方検討	
	4. 実務者部会実施事業 ・医療介護地域ネットワークシステムの構築 ・多職種連携研修会 ・ACPの普及についての検討 ・診療情報提供書（高梁市内高齢者施設用）の見直し	
	5. 高梁かんごねっと（高梁医師会）委託事業 ・専門職のスキルアップと人材育成	
会議 （予定）	第1回	令和8年7月10日（金） ・在宅医療・介護連携推進事業の計画等について
	第2回	令和9年2月4日（金） ・今年度の事業取り組みについて ・医療介護連携システムについて ・次年度に向けての課題と方向性について

令和8年度 市民公開講座について（案）

1. 日時 令和8年11月8日（日）13時30分～15時45分
2. 場所 高梁総合文化会館
3. 内容
寸劇 13：45～14：15
在宅医療・介護連携の普及・啓発（寸劇）
市内医療・介護職有志

休憩

- 講演 14：25～14：55
救急現場から考えるACP（仮）
高梁市消防本部

休憩

- 病院紹介 15：05～15：35
高梁中央病院の取組みについて（仮）

※高梁市文化交流館で、いきいきたかはし介護事業所作品展を開催予定
（市内介護事業所の利用者作品を展示）

令和8年度 実務者部会事業計画

事業目標	・現場の声から抽出した優先課題の協議と解決を目指す。 ・課題解決への取組を通して多職種連携の強化と各職種の資質向上を図る。	
昨年度の 評価	医療機関及び介護事業所等がICTの利活用により業務の効率化、多職種連携の強化を図り、医療・介護サービスの質の向上につなげていくことは重要である。今年度は、専門職へのACP普及啓発を目的とし、久々の視察研修を実施。奈義町の取組みを学ぶ事ができた。 それに関連し多職種連携研修会は、岡山家庭医療センター 奈義・津山・湯郷ファミリークリニック 松下 明 先生を講師にお招きし「岡山県北でのACP（人生会議）普及の取組みについて」と題し集合形式で開催。53名の専門職が参加をし理解を深めた。顔の見える関係の構築と専門職としての資質向上のため、今後も同様の事業を実施していく必要がある。 業務効率化を図るとともに、切れ目のない医療・介護サービスを提供するため、ICTを活用した医療・介護連携システムのあり方を検討した。3月末現在で102事業所129IDで運用をしている。 活用レベルに応じた説明会を計画し、初級者向けのショートウェビナーを開催した。 また、緊急時（災害時）の利用を想定した、緊急用チャンネル活用のフォローアップミーティングも開催。このチャンネルについては、令和8年1月に発生した島根県地震における事業所被害の確認にも活用した。 加えて、令和9年度より有料化になる事を見据えて、継続利用に関する希望調査も実施した。	
主な事業	1. 医療介護地域ネットワークシステムの構築 ・ラインワークスを活用したネットワークシステムについて ・吉備中央町との連携について 2. 多職種連携研修会 ・多職種の参加による研修会の企画、実施 3. ACPの実施に向けての活動 ・ACPの普及についての検討 4. 診療情報提供書（高梁市内高齢者施設用）の見直し	
会議 (予定)	第1回	令和8年7月頃 ・実務者部会の事業計画について
	第2回	令和8年10月頃 ・多職種研修会について ・施設用診療情報の見直しについて
	第3回	令和9年2月頃 ・今年度の事業取組みについて ・次年度に向けての課題と方向性について
	アドホック 会議	検討する内容によって適時開催

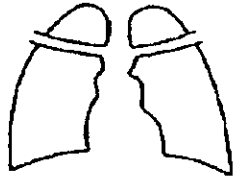
診療情報提供書

所在地:

施設名:

施設長、配置医師 殿

作成日 : 年 月 日

ふりがな 氏 名	様	男	生年月日	歳 ヶ月
住 所	岡山県高梁市 TEL - -			
医療機関 所在地 TEL			主治医氏名	印
既 往 歴				
現在治療中の疾患	1	発病	年	月 ☐ 不詳
	2	発病	年	月 ☐ 不詳
	3	発病	年	月 ☐ 不詳
症状の概要 及び内服薬				
ADL状況	機能障害の有無 ☐ 無 ・ ☐ 有 : 症状・原因 (認知症)			
	移動 ☐ 自立 ☐ 一部介助 ☐ 全面介助	食事 ☐ 自立 ☐ 一部介助 ☐ 全面介助		
	着替 ☐ 自立 ☐ 一部介助 ☐ 全面介助	入浴 ☐ 自立 ☐ 一部介助 ☐ 全面介助		
	排泄 ☐ 自立 ☐ 一部介助 ☐ 全面介助	整容 ☐ 自立 ☐ 一部介助 ☐ 全面介助		
認 知 症	☐ 無 ・ ☐ 有 : 症状 ☐ 記銘力低下 ☐ 失見当識 ☐ 昼夜逆転 ☐ 暴言 ☐ 暴行 ☐ 不穏 ☐ せん妄 ☐ 介護への抵抗 ☐ 不眠 ☐ 徘徊 ☐ 長谷川式 (点)			
療養食の有無	☐ 無 ・ ☐ 有 : 療養食指示内容 [療養食名・制限等]			
アレルギー	☐ 無 ・ ☐ 有 ()			
感 染 症	○TPHA (☐ 有 ・ ☐ 無) ◎HBs抗原 (☐ 有 ・ ☐ 無) ◎HCV抗体 (☐ 有 ・ ☐ 無) ○結核(QFT) (☐ 有 ・ ☐ 無) ○MRSA() (☐ 有 ・ ☐ 無) ○その他感染性疾患 ()	X 線 所 見	 年 月 日 《◎所見》	
その他特記事項	身長 cm 体重 kg			

※感染症の項目については、◎必須項目 ○検査していれば記入してください。

令和 8 年度高梁市在宅医療・介護連携推進事業

1. 地域医療推進に向けた体制強化、関係機関の連携構築

- 1) 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会及び実務者部会、地域包括ケアシステム検討委員会、看護師等確保検討部会、看護協会高梁支部役員会等に参加
- 2) かんごねっと新聞の発行（6 月、10 月、3 月）

2. 看護職、介護職の地域医療スキルアップと人材育成

1) 企画会議

開催月日	開催場所	出席者	協議内容
5 月 12 日(火) 17:30～19:00	高梁医師会 2 階会議室	9 人	・スキルアップ研修について ・人材確保のための学生への PR について ・病院見学ツアー、わくわく子どもフェスタ、高等学校訪問予定、その他、情報交換
8 月 18 日(火) 17:30～19:00	高梁医師会 2 階会議室	人	・スキルアップ研修について (予定) ・人材確保に向けた学生への PR の報告 ・その他、情報交換
11 月 10 日(火) 17:30～19:00	高梁医師会 2 階会議室	人	・スキルアップ研修について (予定) ・次年度の研修計画について ・その他、情報交換
2 月 9 日(火) 17:30～19:00	高梁医師会 2 階会議室	人	・今年度の研修についての評価 (予定) ・次年度の研修、内容について ・その他、情報交換

*各施設から研修についての提案を受け、計画、実施、評価を行う。

令和 8 年度研修企画

目標：看護職のスキルアップを図り、人材育成により、地域医療が円滑に提供できる。

研修名	対象者	開催回数
新入職者研修	新入職者	3 回
看護研究研修	研究発表者	3 回
中途採用者研修	中途採用者	2 回

○新入職者研修

目的：看護職としての実践能力を身につける過程において、自分の看護師像を描ける。

開催日は、1 回目 4 月 21 日（火）

2 回目 9 月 2 日（水）

3 回目 3 月 9 日（火）

開催場所は高梁市役所 3 階会議室

○看護研究研修

目的：看護研究の意義、目的を理解し基礎的能力を養う。

研究課題や、研究の進め方を学ぶ。

最初に講義をしていただき、その後の進め方は検討する。

開催日は、1 回目 5 月 13 日（水）

2 回目 9 月 30 日（水）

3 回目 12 月 2 日（水）

開催場所は高梁市役所 3 階会議室

○中途採用者研修

目的：中途採用者が自らの経験を活かしつつ、新たな職場での人間関係を円滑に構築する。

開催日は、1回目 6月 3日（水） 職場適応

2回目 11月 25日（水） キャリアの定着

開催場所は高梁市役所 3階会議室

新入職者研修会（第1回）

日時：令和8年4月21日（火）

時間：15：00～16：30

場所：高梁市役所 3階会議室

講師：吉備国際大学 看護学科 看護学科長 教授 竹崎和子先生

講演：「ポートフォリオ」

出席者：高梁中央病院 3名

*自己紹介（現在の病院を選んだ理由）

- ・患者に寄り添えるのは、看護師だと思った。

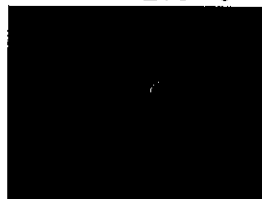
今の病院は、地域密着型で保健師としても活動できると思った。

- ・人の世話をしたい。地域密着型であり、患者に寄り添うことができると思った。
- ・人の役に立ちたい。身体を動かすことが好きなので、アクティブに身体を動かし患者に関わりたい。母も看護師である。今の病院は、地域に根付いているうえ、最新の医療を行っている。

*アンケート結果より

【本日の学び】

- ・学生のころから大切にしてきた、患者さんの価値観を大切にしながら1年後は、患者さんや周囲の人から信頼される看護師になりたい。
- ・基礎力を高めて自分らしさを失わず、働いていきたい。
振り返ることは、時には自分を強めることにもつながるので、できたこと、できなかったことを振り返っていかうと思った。
- ・自分の中にため込みすぎないこと、ミスや失敗を引きずらず、何がダメだったのかどうすればよかったか振り返り、次に生かせるようにしていきたい。



看護研究研修会（第1回目）

日時：令和8年5月13日（水）

時間：15：30～17：00

場所：高梁市役所 3階会議室

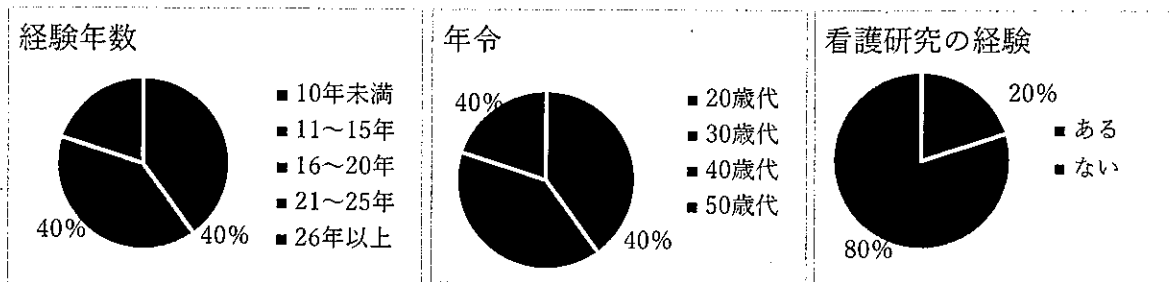
講師：吉備国際大学 看護学科 看護学科長 教授 竹崎和子先生

講演：「看護研究の基礎知識」

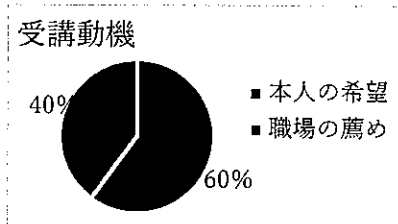
出席者：高梁市役所・備北保健所・成羽病院・高梁中央病院 計6名

看護研究研修会① アンケート結果

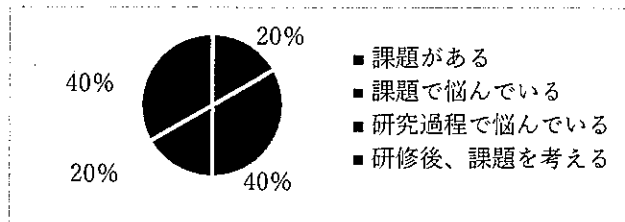
1. 自身について



2. 受講動機について



3. 看護研究を進めるにあたり（複数回答）



4. 看護研究をする上で、悩んでいること等

- ・テーマや目的を決めるのが難しいと思った。
- ・普段の業務を行いながら看護研究を進めていくことは、時間的に厳しいと感じている。
- ・研究発表については、まとまっているが中身に伴う資料集めや文献調べの方法について難しいと感じた。

看護研究のまとめかたについて、文の作成や書類の記入方法が分からなかった。

- ・全体的に悩んでいたため、難しいと思っていました。(何をするのか、ぼんやりだったため)
- ・課題の決め方や、それに対しての研究が難しく感じました。

5. 受講しての感想

- ・まずは、身近で思っている疑問や改善できそうなことなどを書き出して、頭の中を整理しようと思う。
- ・日頃の業務の中で疑問を感じていることが研究になるのか心配な部分もありましたが、助言をいただいて進めていけそうという思いになりました。

講話だけでなく、個別に聞いて進めていただけてありがたいです。

- ・文献の調べ方やまとめかたについて、例としてレシピを作って説明してくださり、とても分かりやすかった。

目的をもう少し明確にして考えることで、発表文献の内容についてまとめやすくなったと感じた。

- ・先生のアドバイスにより、研究内容が決まりました。これで順調良く進んでいけると感じます。
- ・関わりがなかったことなので、すごく新鮮で勉強になりました。

中途採用者研修会（第1回）

日時：令和8年6月3日（水）

時間：15:30～17:00

場所：高梁市役所 3階会議室

講師：吉備国際大学 看護学科 看護学科長 教授 竹崎和子先生

講演：「中途採用者研修」

出席者：さきがけホスピタル 1名 大杉病院 2名
高梁中央病院 2名 成羽病院 1名

内容：目的（竹崎和子先生より）

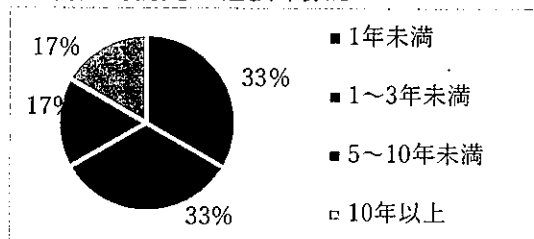
自らの経験を活かしつつ、新たな職場での人間関係を円滑に構築する。

（第1回）6/3 職場適応

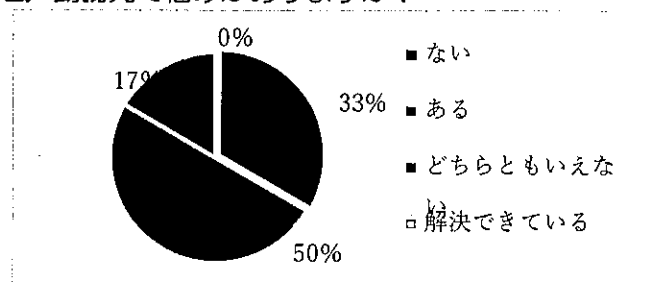
（第2回）11/25 キャリアの定着

中途採用者研修会① アンケート結果

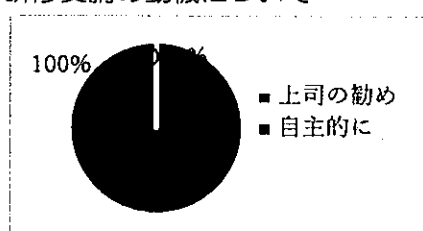
1. 現在勤務先の経験年数は



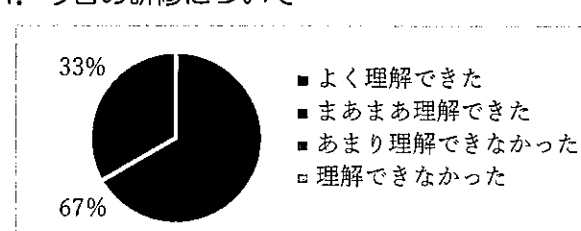
2. 勤務先で悩みがありますか？



3. 研修受講の動機について



4. 今日の研修について



5. 本日の研修の感想

- ・思考の癖からの脱却、人生をより豊かにする、これらを学べて、自分のなかにとめて、これからも仕事に取り組みたい。
- ・心理的ハードルを下げて、職場との調和をはかること、やってみて楽しんで仕事をしていきたい。
- ・他の参加者の方の悩みなどを聞くことができ、自分を見つめなおすこともできた。
- ・なかなか気持ちを変えていくことは難しいが、講義を受けて少し、自分の気持ちが楽になった。
- ・いままでは、できなければダメと追い込むことがあったが、まず今できることに目を向け柔軟に考えていきたいと思った。
- ・アンラーンという言葉は初めて知った。自分の思い込みの癖や、今まで自分が培ってきた知識が「木」で例えると覆い茂っている状態であると気づけた。今回の講義で自分の知識を改めてみようと思った。また、わからないことは素直に聞くことが当たり前というスタンスで、どんどん質問していこうと思った。チーム交代あり素直に聞ける心情に変わったので、自分から色々聞いていこうと思った。
- ・アンラーンという言葉は初めて聞いた。自分の思考の癖や習慣、今までの価値観を見直し柔軟な心をとりのどす。そのことが、自分を受け入れやすくなる、仕事のしんどさの軽減につながるということが理解できた。
- ・短期目標、長期目標をあげ、やっていきたいと思う。
- ・自分の経験を照らし合わせながら学ぶことができた。
- ・先生に質問しながら学ぶことができた。



★ 看護学校訪問

令和8年 4月24日(金) 県北 4月27日(月) 県南

月日	訪問先	対応者	訪問者
4月24日(金)	県立真庭高等学校	太田由紀子 教頭	大杉 熊本総看護師長 成羽 高下看護部長 高梁中央 森看護部長 市役所 赤木 惣田 かんこねっと 原田 さきがけ 欠席
	吉備国際大学	竹崎和子 看護学科長 門倉康恵 准教授 本郷貴士 講師	
	倉敷翠松高等学校	板垣聡美 看護科長 尾崎由加利 専攻科主任	
	川崎医療福祉大学	永井庸央 教授	
	倉敷中央高等学校	森腰美奈 看護科長	
4月27日(月)	川崎医療短期大学	林 千加子 看護学科長 高橋洋子 助教授	大杉 熊本総看護師長 成羽 高下看護部長 高梁中央 森看護部長 市役所 赤木 惣田 かんこねっと 原田 さきがけ 欠席
	旭川荘厚生専門学校	山下純子 看護学科長代理	
	朝日医療大学校	翼盛美幸 看護学科主任 若杉幹生 キャリアサポート	
	倉敷看護専門学校	川口法子 副校長 三宅祥子 専任教員	
	岡山県立大学	岡崎愉加 准教授	

* (真庭高等学校)

- ・看護科、定員は40名。今年度、12名の入学者。全国区の入学可能。
- ・専攻科への進学は、6名。
- ・実習は、金田病院、落合病院、津山中央病院。

* (吉備国際大学)

- ・ホームページ内で検索しやすくするために、24年度より、保健医療福祉学部を看護学部に変更。
- ・R8年度より、看護学部は定員40名、学生確保に尽力している。
R7年度、国家試験合格は100%に至らなかった。
- ・高梁市内で勤務したい希望者は、現4年生で2~3名程度。
現2年生で、成羽病院勤務希望者が1名いる。
- ・編入学生定員、10名。10名入学あり、保健師進学8名、教員進学2名。

* (倉敷翠松高校)

- ・毎年、看護科入学は、20名前後。倉敷市からの入学が多いが、今年度は高梁市より1名入学。
- ・精神科実習は、仁風会。
- ・高梁市内病院の奨学金制度は、ありがたい話であるが3年間の業務規程があるため学生に進めることも検討する必要がある。最近の学生は、地元にもどりたい意向が強い。
- ・准看護師国家試験への受験者は、50%ほど。希望者のみ受験する。

* (川崎医療福祉大学)

- ・保健師への希望者30名。
- ・2025年度の卒業生、102名。83名県内就職。内74名が川崎医科大学に就職。
他は、岡山医療センター、榊原病院、平成病院、倉敷中央病院、川崎総合医療センター。15名程度は、東京、兵庫等の県外。
- ・R8年140名の入学があったが、次年度より130名の定員を維持する。
合理的配慮が必要な学生が増しているため、教員の苦勞も多い。
実習グループメンバー、受講する講義の席なども自ら訴える学生がいる。
自分が目指す業務内容も発言する現在。
- ・がん看護専門看護師を目指してほしいと、教授より看護部長たちに「川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健看護学専攻修士課程高度実践看護師養成コース(がん看護学)」を勧めら

れた。

＊（倉敷中央高等学校）

- ・看護科 40 名定員、40 名の入学あり。
- ・看護師国家試験は、正看護師 1 本、合格率 100%。
- ・実習は、水島中央病院、倉敷リハビリセンター、倉敷記念病院、専攻科になると倉敷中央病院。
- ・就職先は、実習病院と地元に戻る学生が多い。進学は、1～2 名程度。
- ・8 月～12 月まで、実習あり国家試験も控えているため学生は、大変である。

＊（川崎医療短期大学）

- ・定員は、100%に満たない。令和 7 年度は、80 名定員としたが、65 名入学。
大学志向もあり、看護師希望者が最近は少ない傾向。
- ・今年度は、5 名の男子学生の入学あり。
- ・ここ数年、高梁市出身者はいない。
- ・県南病院は、看護師が充足しており就職試験におちる学生もあり、地元に戻る学生が多い。
川崎医科大学も 100 名の募集をするが、質を保持するため試験に落ちる。
- ・精神実習は、仁風会、河田病院、高齢者施設等。

＊（旭川荘厚生専門学校）

- ・50 代男性学生が高梁市内病院の内定をもらっている。高梁市内病院見学ツアーに参加し、魅力を感じたとのこと。
- ・令和 8 年度より、看護学科単科とした。定員 80 名を 40 名に削減。
- ・社会人入学者は、毎年 5 名程度入学し、学習への取り組みも真剣である。
- ・実習は、川崎医科大学附属病院、川崎医療センター、岡山中央病院、日赤病院、岡山大学病院、旭川荘高齢者施設等。

＊（朝日医療大学校）⇒ 今年度、初めての訪問。

- ・看護科新設大学であり、6 期生を卒業させた。
- ・看護科、40 名定員であるが 60%入学にて、R9 年度より 30 名に削減する。
理学療法学科は定員数、100%継続している。
- ・実習は、光生病院、岡山中央病院、榊原病院、瀬戸内市民病院、笠岡市民病院等。
- ・今年度初めての訪問学校であるが、現 2 年生学生が市役所健康づくり課に「高梁市内病院見学ツアー」参加の希望メールをおくってきた。
ぜひ、参加していただきたいとパンフレットを手渡し紹介した。

＊（倉敷看護専門学校）

- ・定員 40 名で、今年度 37 名入学。50%が社会人入学 30 歳代～50 歳代である。
他大学入学できたことで、辞退する学生も多い。
- ・高梁市より受験した学生は、希望していた岡山の学校に入学した。
- ・看護学生確保のため、ここの学校教員も学校訪問を継続しているとのこと。

＊（岡山県立大学）

- ・40 名定員であるが、1 割増の学生入学数は可能。
42 名の入学あり、男性学生も 3 名、県内からの入学生が多い。
- ・就職先は、最近の学生の傾向として、「家から出たくない、進学も自宅から通えるところ、就職先も自宅から通勤できるところ。」
- ・大学としては、個人情報に厳しくなり出身校も伝えることはできない。
- ・アドバイザー面談というものがあり、2 回/年、学生と面談する。
教員も、学生もメンバーが決まっており、教員 2 名に学生 6 名が 1 年次から 4 年次まで担当している。
- ・就職に関し併願希望者もあり、教員としては「併願していることを就職面接時に正直に伝えなさい」と教育している。
- ・実習は、岡山大学病院、倉敷中央病院、岡山市市民病院、倉敷成人病院、岡山医療センター、しげい病院、日赤病院、万成病院等。

病院見学ツアー

日時：令和8年5月16日（土）

時間：9：30～15：30

見学場所：さがけホスピタル⇒成羽病院⇒昼食⇒猫城主さんじゅーろーあしあと館⇒
大杉病院⇒高梁中央病院

参加者： 倉敷翠松高等学校 看護専攻科 2年生

朝日医療大学校 看護学科 2年生



本日の感想を自由に記入してください。

①高梁市は初めての場所で、不安が強かったですが、スタッフの人たちが優しく案内してくれて、観光名所も教えてくれて楽しく見学することができた。

楽しく学びのある一日になりました。

②病院見学ツアーだけでなく、他の部分でも楽しませて学ばせてもらいました。

ありがとうございます。楽しかったです。

わくわくこどもフェスタ 21

日時：令和8年6月20日（土）

時間：10：00～15：00

場所：高梁市栄町商店街

協力者：高梁中央病院看護師 1 名、さがけホスピタル看護師 1 名
（協力者には、1 時間を依頼した）

実行委員会 ： 25 団体・グループ

- 1) 高梁×看護師ガイドブック パンフレット展示
- 2) 奨学金制度 パンフレット展示
- 3) 看護師ユニフォーム着用、写真撮影
- 4) #7119 パンフレット展示

結果

- ・多数の子供たちが、看護師ユニフォームを着用してくれた。
- ・ユニフォーム着用者も多かったが、サイズが小さいため、もう少し大きめのサイズも欲しいという希望もあった

- ・準備したお菓子も喜んで頂けた
- ・吉備国際大学看護学生 ボランティア学生 10 名、教員 3 名が隣で子どもたちに看護体験などを実施されたこともあり、子供たちや親御さんにも声かけやすかった。
- ・一昨年は、赤ちゃんの人形は、リアルすぎて気持ち悪いと恐れた子供がいた。
今年は、あらかじめ学生が人形を抱きかかえていたこともあり、恐怖感がなかった様。
こどもたちは、おむつ交換を体験していた。
- ・4 病院紹介パンフレットを持ち帰る方があった。
- ・＃7119 について尋ねた家族があり、健康づくり課より説明とパンフレットが渡された。
- ・看護学生と話す機会にもなった。



3. 訪問看護ステーションの連携構築

訪問看護情報交換会（第 1 回目）

日時：令和 8 年 6 月 11 日（木）17：30～19：00

場所：高梁医師会 2 階

出席者：各訪問看護ステーション管理者、高梁市地域包括支援センター、かんごねっと、
岡山県看護協会訪問看護総合支援センター長

内容： 1) 本年度の訪問看護ステーションの情報交換会の計画
企画会議内容報告
岡山県看護協会訪問看護総合支援センターより、高梁地域の機能強化について
2) 情報交換

その他

岡山県看護協会訪問看護総合支援センター 江田氏より

- ・今年度の高梁部会の活動目標
→昨年同様に「訪問看護ステーションにおける事業所自己評価ガイドラインによる自己評価を実施した。今後、報告する。
→7 年度は小児看護について、学びを深めることとした。8 年度の目標をどうするか。
- ★ 各ステーションからの意見
 - ・今年度も小児看護を学び、小児訪問看護を目指したい。
 - ・各ステーションに BCP 作成しているが、訓練もしていないので、指導を受けながらシミュレーションしてみるのもよい。
→ 上記 2 点を計画する。

内規

(平成25年5月20日制定)

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱（内規）

（設置）

第1条 在宅医療及び介護を一体的に提供できる支援体制の構築を検討することを目的とし、高梁市地域包括支援センター運営協議会要綱（平成18年高梁市告示第85号）第9条に基づく協議会として、高梁市在宅医療・介護連携推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 協議会は、次の事項について協議及び検討を行う。

- (1) 地域の医療・介護の資源の把握に関すること。
- (2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出及び対応策の検討に関すること。
- (3) 切れ目のない在宅医療及び在宅介護の提供体制の構築推進に関すること。
- (4) 医療・介護関係者の情報共有の支援に関すること。
- (5) 在宅医療・介護連携に関する相談支援に関すること。
- (6) 医療・介護関係者の研修に関すること。
- (7) 在宅医療・介護連携に関する地域住民への普及啓発に関すること。
- (8) 在宅医療・介護連携に関する他の自治体等との連携に関すること。

（組織）

第3条 協議会は、関係団体の代表者、関係行政機関の職員その他市長が必要と認める者をもって構成する。

（任期）

第4条 委員の任期は、2年とする。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 公職にあることにより選任された委員は、その職を退いたときに委員の職を失うものとする。

（会長及び副会長）

第5条 協議会に会長1人及び副会長若干人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は会長が招集し、その議長となる。

(専門部会)

第7条 第2条の所掌事務に関する具体的事項について調査及び研究するため、協議会に専門部会(以下「部会」という。)を置くことができる。

2 部会は、会長が委員並びに医療、介護及び福祉関係者等の中から指名した者で構成する。

3 部会に部会長及び副部会長を置き、会長がこれを指名する。

4 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(意見の聴取)

第8条 協議会及び部会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明を受け、または意見を聴取することができる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域包括支援センターにおいて処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年5月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。